

会 議 概 要

1 会議名	令和6年度 第4回 笠間市子ども・子育て会議
2 開催日時	令和7年3月26日(水)午後3時から
3 開催場所	市民センターいわま 2階会議室
4 出席者	笠間市子ども・子育て会議委員 18名(欠席2名)、事務局
5 会議資料	・会議次第 ・資料1 第3期笠間市子ども・子育て支援事業計画 第3期笠間市子ども・子育て支援事業計画概要版 ・資料2 笠間市特定教育・保育施設別利用定員について
6 会議の概要	1. 開 会 2. 会長あいさつ 3. 議 事 (1)第3期笠間市子ども・子育て支援事業計画書について (2)笠間市特定教育・保育施設別利用定員変更について (3)その他 4. 閉 会

<議 事>

(1)第3期笠間市子ども・子育て支援事業計画書について

【事務局より資料1 第3期笠間市子ども・子育て支援事業計画について、11月の素案からの変更箇所の説明】

○3ページ、2 計画の概要は(1)～(3)と見出しをつけ見やすくした。

○17～20ページ、(2)地域子ども・子育て支援事業は令和6年度実績として、原則11月末時点の数字を記載した。

○26～32ページ、3 アンケート調査からみられる状況に、(2)こども本人調査を追加掲載。この計画書の基となるようなこども本人のアンケート結果を記載している。

○33～36ページ、(3)子育て支援を行う中で感じること(支援機関・団体等調査から)を追記している。

○43ページ、施策の体系、基本目標1(3)の⑭～⑰は「新規」としていたが、笠間市として既にやっている事業ということもあり、「新規」を削除した。

○47～59ページ、(3)地域子ども・子育て支援事業の提供体制等の①～⑰の事業説明の文言修正、量の見込み、提供体制に加え、記載可能な事業については実施箇所等を追加した。

○61ページ、基本目標2 総合的な子育て支援の推進とこどもの育成支援の取組の表に事業を追加した。(②乳幼児の健やかな発育支援と子育て支援の体制強化に図書館事業のブックスタートとおはなし会(63ページ)、②こどもと子育て家庭の生活支援の推進に学校給食費負担軽減事業(68ページ))

○77～87 ページ、基本目標 3 こどもの貧困の解消に向けた対策の推進については、体系図や取組事業その他を具体的に記載し、11 月の素案に比べ内容を充実させた。

○参考資料として子ども・子育て会議設置条例、委員名簿、策定経過、用語解説を掲載した。

○令和 7 年 1 月 30 日～2 月 18 日の間パブリックコメントを実施し、5 人 7 件の意見があった。主な意見としては、子育て支援の拠点となるような図書館の整備や公園の整備などをして、子育て世帯を誘致したらどうか、児童館の利用の要望、不登校に関すること、医療福祉費支給制度に関すること、現在子育てをされていて思うことなどがあった。

意見・質問等(委員)	回答(事務局)
【第 1 章・第 2 章】 ・第 1 章・第 2 章はどうか。第 2 章の内容は有意義だと思った。 ・1 ページ、計画策定の趣旨、(1)の 1 行目に令和 5 年の出生数について記載しているが、減っているのは問題かと思うので、書き込むかは別として、令和 6 年の出生数にした方がよいのではないか。 ・33 ページの支援者アンケートを入れた目的があれば教えてほしい。 ・アンケートの項目は市独自なのか、一般的なものなのか。 【第 3 章・第 4 章】 ・46 ページや 49 ページで、量の見込み、提供体制が減っているのはなぜか。 ・数的なところであって、特定の施設がどうということではないということである。 【全体を通して】 ・第 2～4 章に課題が出ているが、今後どうやっていくのか。結果について何かで知らせたり今度の作成のときに書かれたりする予定はあるのか。 ・66 ページ、第 4 章(3)の【現状・課題】に「理想のこどもの数と予定のこどもの数が異なる理由」と書かれているが、実際の結果はどこにあるのか。	・令和 6 年の確定値が出ていないと思う。 ・もともとアンケートをとっていたが、公表する機会がなかったので入れた。一番身近に携わっているような方が、思っていることということで記載している。 ・国の指針のようなものと、市として必要なものを両方検討しながら実施した。 ・こども数の減少によるものである。 ・子ども・子育て支援事業については令和 7 年度から始まるので、実績報告のような形でこちらの会議に諮って報告させていただき、ホームページ等で毎年度公表していく。 ・アンケートはとっているが、計画書に結果自体は入れていない。回答者の意見となっている。

(2)笠間市特定教育・保育施設別利用定員変更について

【資料2に沿って事務局より説明】

○市内も少子化が進んでおり入所児童の確保が難しいことから、3施設について定員変更の申出があり、令和7年4月1日以降定員減となる。こじか幼稚園(笠間地区)は1号認定を45名から35名へ10名減、岩間保育園(岩間地区)は2号認定を69名から54名、3号認定を51名から46名、合計で20名減、おしのべこども園(岩間地区)は1号認定を6名から10名、2号認定を48名から42名、3号認定を32名から28名、全体で6名減となり、3施設で合計36名の定員の減少を見込んでいる。

(3)その他

○令和7年度からこども政策課が子ども・子育て会議の事務局になる。

○令和7年度にこども計画を策定する予定である。

意見・質問等(委員)	回答(事務局)
【委員からの感想】 ・全ての面で充実した施策が組まれており、子育てのまち、安心して産めるまちということでアピールできるのではないかと思います。ただ、生まれたこどもへの支援はよくわかるが、少子化で本当に問題なのは、若者、結婚や出産ができる年齢の方が結婚や出産をしないということだと思います。なぜ結婚・子育てを回避するのか、メリット・デメリットをどう考えているのか、子育てや出産が可能な世代に対して実際に産んでいる人の割合はどれくらいか、結婚や出産をしない人の多様性を容認するという形で放置していいのかなど、意識の変容ができるなら、そのような視点が必要であり、横のつながりをもって取り組んでほしい。次回の計画策定時にはそのような視点での調査も入れていくとよいのではないかと思います。 ・心配しているのは少子化のことである。ここに切り込めない部分が大事だと思う。仲人制度をしている所がテレビで放映されていたが、この地域は少子化に本当に取り組んでいて、参考になるのではないかと考えてみていた。自分は自営業だが後継者はいない。孫の世話が大変で、車に乗れる間はひ孫の世話までするのではないかという状況である。少子化が進み若い人が続いてくれば、災害や道路の陥没等が起きた時に、だれがどういう処置をしてくれるのかと思う。少子化に真剣に取り組んでほしい。 ・今の子育て環境は、色々な市町村で獲得競争のようなことが起きているというところもあると思う。サー	

意見・質問等(委員)	回答(事務局)
ビスをやっていく弊害もある。少子化に歯止めがかからないというところで色々苦しい部分があると思うが、今後も皆さんで意見を出し合いながらやっていけるとよいと思う。 ・計画には仕事でやってきた内容が入っていて、本当に大変だと思った。ボランティアで県から委嘱され、マリッジサポーターを水戸市でやっている。令和7年度から笠間市でも実施予定なので、周知をしていきたい。その時はよろしくお願いいたします。 ・22 ページ、「急な預かりを頼める人」がいけないという回答が 22.5%という数字を見て、ファミリー・サポート・センターが1つの選択肢になるように周知したり、人材の確保面でも強化していかないとならないと思った。 ・26、27 ページの「自分のことが好きだ」、「自分は価値のある人間だと思う」の調査結果で「思わない」という回答が半数近いのを見て、ああ、と思った。地域に見守られている安心感や、この地域に住んでよかったと思える地域づくりを社会福祉協議会も市と一緒に考えて携わっていかれたらと思う。 ・教育部でも、今年度1年かけて学区審議会というものをしていて、答申をいただけることになった。その答申に従って来年度は本格的に地元と協議をしながら、学区の再編を進めていくことになる。質問だが、来年度もこの会議は同じように開催するのか。 ・笠間市では、令和7年度に笠間まるごと「子育て都市」宣言プロジェクト Stage3 ということで、様々な事業を全庁的に推進する予定である。これからも皆さんからのご意見をいただきながら事業を展開していければと思う。 ・くるす保育所はピーク時に比べると子どもが半分ぐらいになってしまっているのが、危機感がある。このような取組で少子化に歯止めがかかるとよいと思う。 ・このようにサポートがあることを会議に参加するまで知らなかった。保護者が見える所に計画内容がある、わかるようにできるとよいと思った。 ・児童館には、3～4歳児ぐらいまでが多数遊びに来ていたが、コロナ後は0～2歳児は少なく、3～4歳児	・開催する。

意見・質問等(委員)	回答(事務局)
はいない。色々と行事等もやっているが、共働きの家庭が多く、産休・育休明けにすぐ仕事に復帰し、こどもが小さいうちから預けているので、内容を変えないと対応できない。多子世帯、育休中である等、色々な状況がある。色々な声を聞いて支援していきたい。 ・会議に参加して色々なサポートがあることを知り、周りに困った人がいたら支援できればよいと思う。今後も勉強できるようにしていきたい。 ・会議に参加できてよかった。学んだこと等、こどもに還元していきたいし、サポートの方法や事業などについて周りの保護者にも伝えていきたい。 ・この会議に参加しなかったら、このような計画が作られていることも知らないままだった。保護者は読むゆとりがないのではと思うが、有益な情報が載っていると思うので、できるだけ周知できるように対策をとってもらいたいし、私自身も広めていきたいと思った。この計画を活用して、楽しく心にゆとりを持った子育てをして、子育てが大変そうと思っているこれからの若い人により影響となるようにがんばりたい。 ・施設運営をしていて、少子化がどんどん進み歯止めが利かないという現状を目の当たりにしている。解決できない難しい問題がたくさんあると思うが、笠間市が活性化して、居住したいと思えるまち、夢を先取りできるまちづくりができればと思う。 ・素晴らしい計画ができてよかった。特別支援の他に、支援が必要な家庭にもぜひ策定されているサービス等が積極的に活用されるとよいと思う。それでもとりこぼれる家庭、こどももいる。例えば通学の送迎等が難しい場合、特別支援学校ではデマンドタクシーを使うことなどを提案するが、支援学校ではよくあるサービスを現実的に受けるのは難しいと感じるので、アップデートできるとよい。笠間市は育成支援センターがあるので、障害のあるこども達のことは、上手く回っていると感じている。県立学校にはセンター的機能があるので、しっかり連携していきたい。75ページの連携について、保幼小中特別支援連携事業で、小・中・義務教育学校の特別支援学級とあるが、笠間市在住で特別支援学校に通っているこどももいるので、例えば文言で「保幼小中特を接続」などというようになるとよいと思う。実際に笠間市の教育委員会からは県立学校でも声をかけていただき連携でき	

意見・質問等(委員)	回答(事務局)
ているので、特別支援学校も含めていただけるとよい。 ・少子化が進む中で、手づまり感がある。今後も色々なアイデアを出しながらやっていきたい。市では笠間まるごと「子育て都市」宣言をやっているが、市議が知らなかったのも、頑張って全体的に子育てのまちというのを広げていってほしい。「産み育てやすいとは何か」がアンケートに必要だったかもしれない。何をもって産み育てやすいと思うのかは人それぞれで、何を欲しがってるのかが大事だと思う。すべてのこどもが幸せになることは本当に大事だが、今は産むことが親の不幸だと感じてしまっているところがあると思う。本当に幸せな親の姿を見せて、こどもをもつこと、子育ては素晴らしいということを広めていくような施策をつくり、幸せな子育てができる、産み育てやすく親子ともに笑顔になれるまちを作っていくことが一番だと思う。こどもが増えて人口を維持するということも必要で、インフラの整備をする時にこどもが少ないことで税金を多く払うことになった時にどうするのか考えてもらうことも大切だと思う。こどもをもつことがマイナスにならないことをうまく伝え、こどもを産み育てて幸せになるというところにつなげていけると、少子化問題からは抜け出せないと思う。財政的な面での循環も誰かが伝え、みんなで考えていければよいと思う。	

○次回の会議開催 令和7年6月頃を予定(日程は未定)